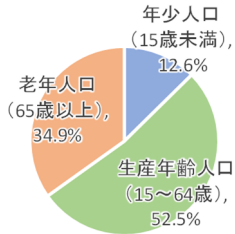


二日市 (ふつかいち)

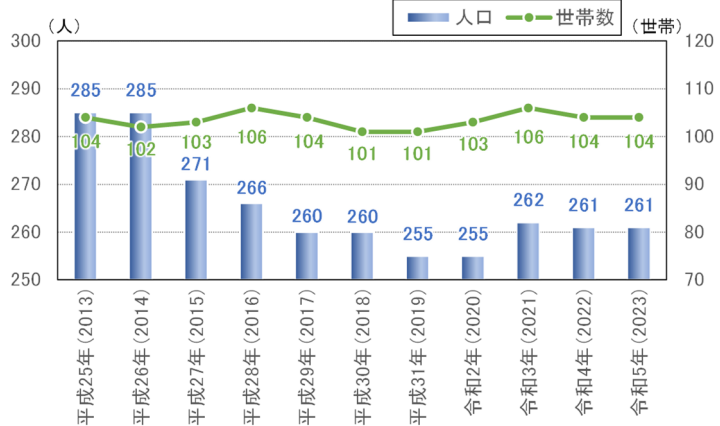
人口・世帯数等 (令和5年4月)

人口	261人
世帯数	104世帯
高齢化率	34.9%

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立地 集落の南側に山が迫り、岸田川が北西に流れる。北側を JR 山陰本線・国道 178 号 (旧浜街道) が走り、西側を県道竹田指杭線が走る。

地名由来 古くから月の二日に市が開かれた集落であるため、この名があると伝える。なお、『但馬郷名記』には、大家村と記されており、氏神である式内社大家神社との関係がうかがえる。

歴史等 集落の南東の山頂には、戦国末期の井ノ谷城と西ノ城跡があり、滝川げんのしょうが居城したという。近世の二日市村は、豊臣政権下では太閤蔵入地 (豊臣氏の直轄地) で、江戸時代には、慶長 10 年 (1605) 因幡国若桜藩領、元和 3 年 (1617) 幕府領、寛永 4 年 (1627) 旗本宮城氏知行、正保元年 (1645) 幕府領、寛文 8 年 (1668) 豊岡藩領、享保 12 年 (1727) からは幕府領となった。家数は、宝暦 10 年 (1760) 42、嘉永元年 (1848) 53。天保 5 年 (1834) の『但馬国郷帳』 (天保郷帳) の村高は 277 石余。宮城氏知行の時、岸田川の大改修が行われ、昭和初期まで集落の中央を流れていた。

明治 22 年 (1889) 大庭村の大字となり、昭和 29 年 (1954) からは浜坂町の大字となる。明治 24 年 (1891) の戸数 58、人口は男 154・女 162。昭和 33 年 (1958) 浜坂総合病院が公立豊岡病院浜坂分院として開院した。昭和 39 年 (1964) には、ボーリングにより温泉源が発見された。

これまで把握している文化財

文化財の件数 52 件 (うち指定等文化財 1 件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等		
有形文化財	建造物	建築物	2	12	0	
		石造物	0		0	
		工作物・その他の構造物	0		0	
	美術工芸品	彫刻	2		0	
		絵画	0		0	
		工芸品	1		0	
		書跡・典籍	2		0	
無形文化財		古文書・歴史資料・考古資料	5	0		
		音楽	0	0		
		演劇	0	0		
		工芸技術	0	0		
		その他の無形文化財	0	0		
		信仰の場	2	0		
		祭具	0	0		
民俗文化財	有形の民俗文化財	民具	0	5	0	
		その他の有形の民俗文化財	0		0	
		年中行事・民俗芸能	2		0	
	無形の民俗文化財	民俗技術	0		0	
		食文化	0		0	
		民間話話・俗信	1		0	
		その他の無形の民俗文化財	0		0	
記念物	遺跡	散布地・集落跡・生産遺跡	0	35	0	
		古墳・その他の墓	29		0	
		城館跡・寺社跡	3		0	
		街道・古道等	1		0	
		戦争遺跡	0		0	
		その他の遺跡	0		0	
	名勝地	山岳・高原・丘陵	0		0	
		海岸・海浜・島嶼	0		0	
		河川・滝・渓谷・湖沼	0		0	
		公園・庭園	0		0	
	動物・植物・地質鉱物	動物	動物		0	0
			植物		1	1
	文化的景観	生活・産業・風土により形成された景観地	生活・産業・風土により形成された景観地		0	0
伝統的建造物群			宿場町・城下町・農漁村等	0	0	



国正寺(本堂)



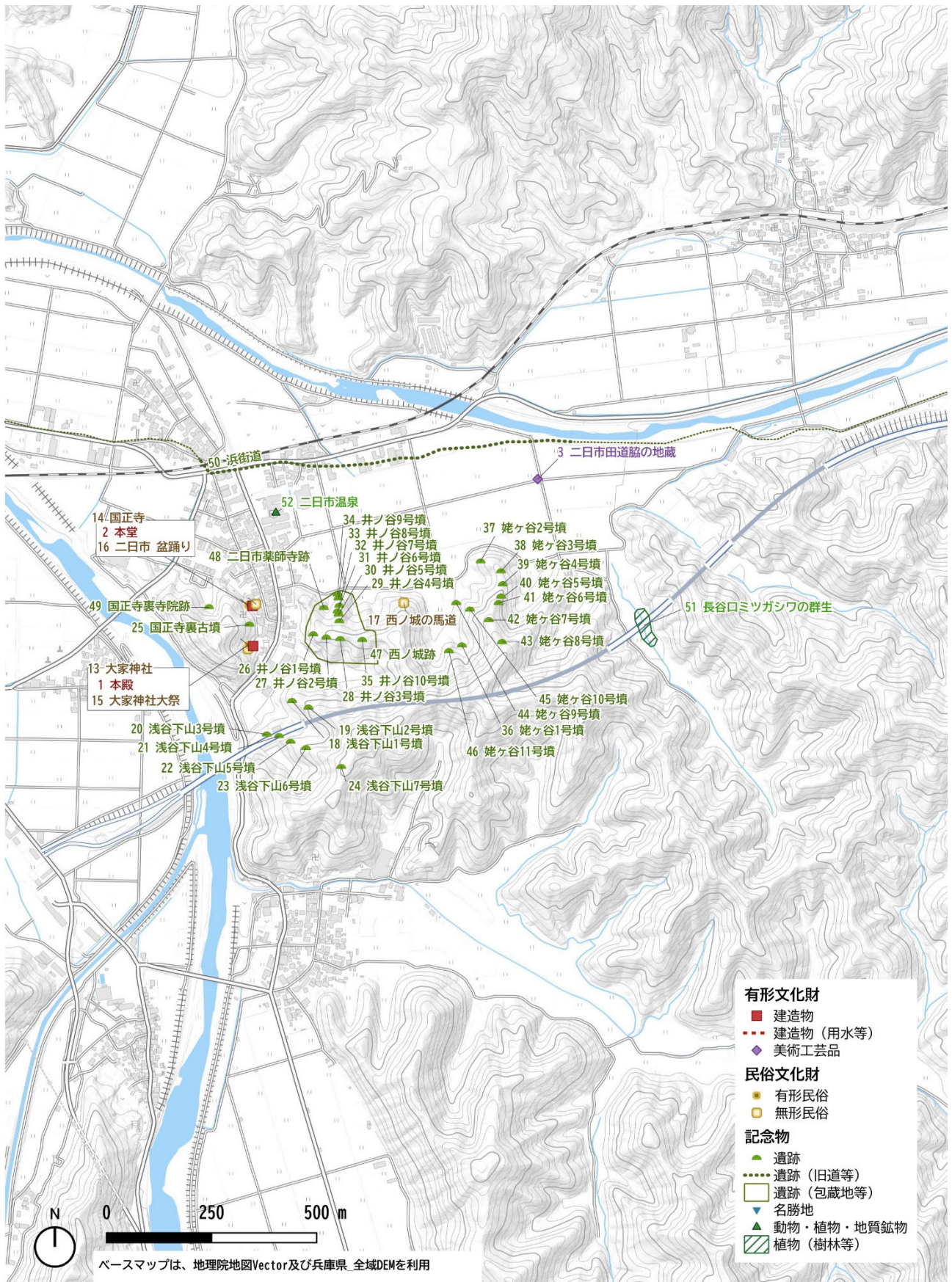
大家神社



長谷ロミツガシラ湿地

※人口・世帯数は住民基本台帳 (令和5年4月現在) による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

2-01 二日市

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
建築物	1	大家神社の本殿	本殿は修復されたものとみられるが、欄間の龍、木鼻の獅子はかつての本殿に使われていた中井権次による彫刻を使用している。
	2	国正寺の本堂	江戸時代の木造寺院建物。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	3	二日市田道脇の地蔵	耕地整理により二日市付近の浜街道の旧道は消滅したが、道脇に文化8年（1811）6月建立の地蔵が祀られ、僅かに往時の面影を伝える。久斗山の子どもがこの場所まで流されたため、久斗山の人がその子を供養するために祀ったものと伝わる。
	4	国正寺の阿弥陀如来像	国正寺の本尊。江戸時代の木造仏と思われる。
工芸品	5	井上寒磔拝領の御所人形	国正寺の寺宝。木箱の墨書には、萬延元年（1860）3月に京都の宮家・閑院宮家より井上寒磔に下賜されたものであることが記されている。
書跡・典籍	6	国正寺の扁額	国正寺本堂の正面にある山号「谷垣山」の額。井上寒磔揮毫。
	7	国正寺の六字名号	蓮如上人の真筆。
古文書・ 歴史資料・ 考古資料	8	滝川卓三文書	旧二日市村の庄屋を代々務めた滝川家の文書。庄屋文書として、検地帳・名寄帳・村明細帳・宗門改帳ほか保存されていたと思われる。関西大学、帝塚山短期大学図書館に収蔵。
	9	二日市村文書	二日市ふれあいセンター書庫に保管。
	10	宇野節夫文書	寛延元年（1748）村制度関係文書。
	11	きりしたん禁制の高札	兵庫県立歴史博物館所蔵。慶応4年（1868）のもの。
	12	徒党強訴逃散禁止の高札	兵庫県立歴史博物館所蔵。慶応4年（1868）のもの。

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	13	大家神社	祭神は大己貴尊。創立年月は不明。延喜の制小社に列し、承平6年（936）に社殿を再建し、鎌倉時代には神田3町60歩を有したことが記録に残る。延宝年間（1673～1681）には領主京極甲斐守が社参して神田6畝歩を寄進した。明治6年（1873）10月に村社に列せられる。
	14	国正寺	元は二日市字薬師にあった寺で、貞享2年（1685）国正寺と改められた。浄土真宗本願寺派の寺院。本尊は阿弥陀如来像。

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・ 民俗芸能	15	大家神社大祭	4月第3土曜日に行われる。
	16	二日市 盆踊り	8月14日に行われる。
民間説話・ 俗信	17	西ノ城の馬道	井ノ谷に馬道といわれる1.5mほどの溝になった道跡が残る。この上に昔、滝川げんのしょうという武士がいて、馬で上り下りした道だから「馬道」というと伝わる。

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
古墳・ その他の墓	18	浅谷下山1号墳	古墳時代の古墳。円墳、径7m。
	19	浅谷下山2号墳	古墳時代の古墳。円墳、径8m。
	20	浅谷下山3号墳	古墳時代の古墳。円墳、径7m。
	21	浅谷下山4号墳	古墳時代の古墳。円墳、径7m。
	22	浅谷下山5号墳	古墳時代の古墳。円墳、径8m。
	23	浅谷下山6号墳	古墳時代の古墳。円墳、径8m。
	24	浅谷下山7号墳	古墳時代の古墳。方形、10m×6m。
	25	国正寺裏古墳	古墳時代の古墳。国正寺の裏に横穴と思われる穴が開き、群集墳の可能性があったが全壊。
	26	井ノ谷1号墳	中世墓3基検出。径12m。「西ノ城」の区域にあたる。
	27	井ノ谷2号墳	古墳時代の古墳。方形、全長12m、木棺直葬墓。墳頂部より木棺墓3基・壺棺墓1基の合計4基が検出されている。土師器・剣・斧・ヤリガンナなどが出土。「西ノ城」の区域にあたる。
	28	井ノ谷3号墳	古墳時代の古墳。方形、全長20m、木棺直葬墓。墳頂部より木棺墓5基が検出されている。土師器・大刀・剣・管玉等が出土。合計11基の柱穴が検出され、その周辺から底部が回転糸切りの土師皿片が出土しており、中世墓に関連する遺構と考えられている。「西ノ城」の区域にあたる。
	29	井ノ谷4号墳	古墳時代の古墳。方形、全長8m。「西ノ城」の区域にあたる。
	30	井ノ谷5号墳	古墳時代の古墳。方形、全長7m。「西ノ城」の区域にあたる。
	31	井ノ谷6号墳	古墳時代の古墳。方形、全長10m。「西ノ城」の区域にあたる。
	32	井ノ谷7号墳	古墳時代の古墳。方形、全長8m。「西ノ城」の区域にあたる。
	33	井ノ谷8号墳	古墳時代の古墳。円墳、径10m。「西ノ城」の区域にあたる。
	34	井ノ谷9号墳	古墳時代の古墳。円墳、径4m。「西ノ城」の区域にあたる。
	35	井ノ谷10号墳	古墳時代の古墳。円墳、径10m。「井ノ谷城」の区域にあたる。
	36	姥ヶ谷1号墳	古墳時代の古墳。円墳、径6m、横穴式石室（破壊されている）。須恵器・土器片が出土。
	37	姥ヶ谷2号墳	古墳時代の古墳。円墳、径6m。
	38	姥ヶ谷3号墳	古墳時代の古墳。楕円形、径18m。
	39	姥ヶ谷4号墳	古墳時代の古墳。円墳、径11m。
	40	姥ヶ谷5号墳	古墳時代の古墳。円墳、径6m。
	41	姥ヶ谷6号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺5m。
	42	姥ヶ谷7号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺5m。
	43	姥ヶ谷8号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺5m。
	44	姥ヶ谷9号墳	古墳時代の古墳。円墳、径6m。
	45	姥ヶ谷10号墳	古墳時代の古墳。円墳、径10m。
46	姥ヶ谷11号墳	古墳時代の古墳。円墳、径6m。	
城館跡・ 寺社跡	47	西ノ城跡	中世の城館跡。一部に古墳を利用した小規模な曲輪群を不連続に配置した縄張りから、南北朝期に築城起源をもつと思われる。主郭周辺は、帯曲輪によって改修が加えられているようであり、小規模ながら畝状縦堀を含む縦堀群が多用されていることから、戦国末期の改修が明らかである。縄張りから判断すると、城主居館は薬師堂があったとされる「薬師谷」か、北側に延びる2つの尾根（曲輪群）に囲まれた「井ノ谷」に所在したと思われる。主郭部分から建物跡3棟などを検出。
	48	二日市薬師寺跡	伝近世寺院跡。
	49	国正寺裏寺院跡	石仏等が散乱している。

2-01 二日市

分類	番号	名称	概要
街道・古道等	50	浜街道	歴史的には「因幡道」「湯島道」とも呼ばれ、豊岡から鳥取間を結ぶ。江戸時代の浜街道を「古道」、明治時代の浜街道を「旧道」と呼ぶ。ルートはほぼ現在の国道178号に沿い、道幅は街中で約2間、平地は1間、山中では約半町であった。浜坂村・森秀助の『出雲紀行』や但馬国美含郡轟村・細田方齋の『因幡行日記』などの紀行文、伊能忠敬測量日記（第5次）などに浜街道が使われた記録が残る。久美浜代官が領内巡検のために浜街道を使ったことや、庶民も浜街道を使って往来していたことも知られる。

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
植物	51	長谷口ミツガシワの群生	長谷口ミツガシワ湿地保存会により保存活動が行われている。 町指定文化財
地質鉱物	52	二日市温泉	昭和39年（1964）に掘削に成功。国民宿舎の建設計画があり、温泉掘削を始めたものと思われる。後に、公立浜坂病院を移転する。現在は、昭和39年の源泉は廃止され、平成4年（1992）6月に新たに掘削したものである。湧湯温度47.0度、湧出量300ℓ。国民宿舎・公衆浴場は今では無く、公立浜坂病院や介護老人保健施設「ささゆり」で利用されている。

